



Lecture series

<第9回>

誰がカンニングを見たか

平成27年 7月 8日(水) 15:00~16:15

京都大学附属図書館 1階
ラーニング・コモンズ

(京都大学 学部生・院生対象)



大関 真之氏

(京都大学大学院情報学研究科
システム科学専攻適応システム論分野
助教)



Learning Commons

問合せ先：京都大学附属図書館 参考調査掛

TEL:075-753-2636 / e-mail:ref@kulib.kyoto-u.ac.jp

今回のテーマ

隣の解答用紙をこっそり盗み見るところから始まり、腕に文字を書く、机の下に本を忍ばせるなど数々の伝説が残るカンニング。昨今では携帯電話を始め、スマートフォンを駆使したカンニング技術も進化しているようです。そんな教師と生徒の間で交わされるカンニング攻防戦に、機械学習と呼ばれる最新技術で挑んだ研究を本講演では紹介します。

キーワードはスパース性。たまにしかそんなことは起きないだろうと分かっている場合、非常に少ない情報からでも精度よく推定を行うことができます。

この研究を行ったのは驚くなかれ、京都大学の学部生です。身近な話題で最先端の研究を行うことができる自由な雰囲気を感じられる京都大学の良さを本講演で感じていただくことができれば幸いです。



大関 真之 氏 自己紹介

自由気儘な研究者。1982年生まれ。大学院修士課程在学中より駿台予備学校物理科講師で教壇に立ちながら、理論物理の計算に没頭。

2008年東京工業大学大学院物性物理学専攻博士課程修了。

2010年より京都大学大学院情報学研究科システム科学専攻助教。

2011年から約1年間イタリアローマ大学にて在外研究活動に従事。

そのときのイタリア生活奮闘記が自身のHP上で読めるとか。

[HP] <http://www-adsys.sys.i.kyoto-u.ac.jp/mohzeki/index.html>

[イタリア生活奮闘記] <http://www-adsys.sys.i.kyoto-u.ac.jp/mohzeki/Publish/Italy.html>